

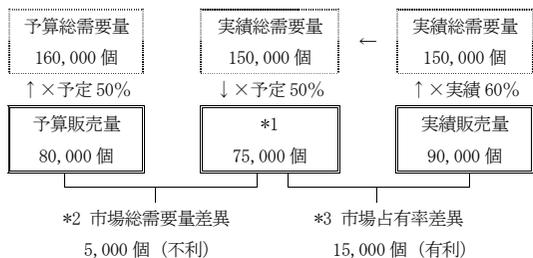
第131回 日商簿記検定試験 1級 一原価計算一 解説

模範解答・予想記点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

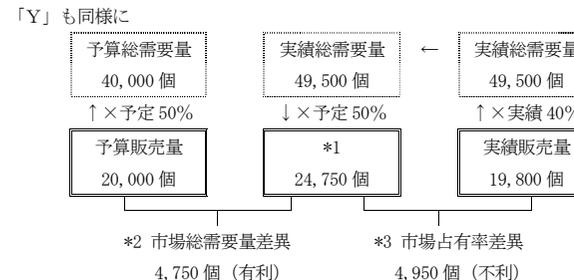
- ① 予算売上高 「X」 40,000 + 「Y」 24,000 = 64,000
 実績売上高 「X」 43,200 + 「Y」 24,354 = 67,554
 3,554
- ② 売上高 「X」 43,200
 「Y」 24,354 67,554
 変動売上原価 「X」 22,500
 「Y」 9,900 32,400 ← 予算変動製造原価 × 実績販売量
 変動販売費 「X」 4,500
 「Y」 198 4,698
 貢献利益 30,456
- ③④ 貢献利益率 「X」 $\frac{16,000}{40,000} = 0.4$ 「Y」 $\frac{13,800}{24,000} = 0.575$
- ⑤ 予算売上原価 $\frac{10,000 \text{ 千円}}{20,000 \text{ 個}} = 500 \text{ 円/個}$ 実績売上原価 $\frac{8,712 \text{ 千円}}{19,800 \text{ 個}} = 440 \text{ 円/個}$

- ⑥⑦ 「X」 予算販売量 80,000 個 を 市場占有率 50% で割り戻すと 予算の市場総需要量 160,000 個 となる。
 同様に、実績データもやってみると
 実績販売量 90,000 個 を 市場占有率 60% で割り戻すと 実績の市場総需要量 150,000 個 となる。
 「Y」も同様に
 予算販売量 20,000 個 を 市場占有率 50% で割り戻すと 予算の市場総需要量 40,000 個 となる。
 実績販売量 19,800 個 を 市場占有率 40% で割り戻すと 実績の市場総需要量 49,500 個 となる。

- ⑧～⑫ 「X」 実績の市場総需要量 150,000 個に予定占有率 50% を掛けて、
 「*1 実績市場総需要量における予定占有率を達成した場合の販売量」 75,000 個を準備すると



- *2 占有率は同じだが、市場規模の違いによる販売量の差異。
 5,000 個 × @200 (予算貢献利益) = 1,000 千円 (不利)
 *3 市場規模は同じだが、占有率の違いによる販売量の差異。
 15,000 個 × @200 = 3,000 千円 (有利)



- *2 市場総需要量差異 4,750 個 × @690 (予算貢献利益) = 3,277.5 千円 (有利)
 *3 市場占有率差異 4,950 個 × @690 = 3,415.5 千円 (不利)
- ⑬⑭ 販売価格総差異
 「X」 (予算単価@500 円/個 - 実際単価@480 円/個) × 実績販売量 90,000 個 = 1,800 千円 (不利)
 「Y」 (予算単価@1,200 円/個 - 実際単価@1,230 円/個) × 実績販売量 19,800 個 = 594 千円 (有利)
- ⑮ 売上高営業利益率 = $\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$
- ⑯ 経営レバレッジ係数 = $\frac{\text{貢献利益}}{\text{営業利益}}$